

岩手・木質バイオマス研究会（災害救援前線遠野部隊）が、

（社）岩手県建設業協会遠野支部と協力して、

津波等被災地救援【焚き火ボイラーかまど】の試作を始めました

【要旨】

避難所など被災地における仮設住宅等が整うまでの調理、衛生環境、維持、精神面の支援などを目的に**岩手・木質バイオマス研究会**の会員である**佐藤築炉工業(株)**と薪のある暮らし方工房（ともに花巻市）が**（社）岩手県建設業協会遠野支部**が協力して、**被災地現場での湯沸かし（400L）や焚きだしなど調理用の熱源として、U字側溝やドラム缶などどこにでもある資材により、簡易ボイラー兼かまどを試作、連休明けに被災地に入り、設置希望を伺って回る**ことにしている。

被災地からの要望を受けて改良や増産する体制を整えながら、現地での設営や運営を支援するボランティアなどの手配も今後の課題となっている。

また、県外の岩手・木質バイオマス研究会の関係者から提供（貸し出し）を受けている**薪ボイラー（100kw と 80kw の 2 台を遠野で保管）**の被災現地での活用についても検討を行なっている。**※この 2 台がフル稼働した場合 1 千人/日以上の入浴に対応できる可能性がある**

1. 【災害救援焚き火ボイラーかまど】の展開

● **【災害救援焚き火ボイラーかまど】プロジェクトの趣旨・目的等**

- ①津波被災地の避難所や被災集落等のコミュニティにおいて、化石燃料、電力を必要としない（燃料は津波による流失施設等の廃木材）炊事兼湯沸しの施設を整備する。
- ②かまどは主に「湯沸し（水の滅菌）」や「暖かい汁物などの焚き出し」に
- ③沸した湯（400L）は、当面、身体の清拭や洗髪、鍋や食器などの消毒などに
- ④軌道に乗れば、湯沸し能力を強化して、ブルーシートなどによる簡易共同風呂やシャワーに湯を供給（バスポンプなどにより）
- ⑤ **【ボイラーかまど】の周囲は、避難者等が暖をとりながらコミュニケーションの場となり、癒しにつながる**
- ⑥ **廃材薪の収集、薪を切る作業、割る作業、薪をくべる作業、水や湯の搬送、配布などは、被災者自らが行なうことにより「避難所などの皆の役に立っている」という「生きがい対策（精神衛生の維持）」「ストレス解消」、「運動不足に伴う健康障害（＝便秘やエコノミークラス症候群、糖尿病、高血圧症等の悪化につながる）予防」になる**
今後、仮設住宅などが整備されるまでの2～3ヶ月間を想定したつなぎ対策です。
★⑤と⑥の効果を最も重視しています。

●今後の進め方等

- ・3月13日から【焚き火ボイラーかまど】の試作をはじめました。
別紙の写真等資料をご参照ください。
- ・3月20日の夜までには完成（耐火コンクリートの養生完了）し、
- ・明日21日には試験運転（火焚きと湯沸しなど）をして、改良点を確認。
- ・22日から、2～3種類のサンプル、プロトタイプをトラックに積み、
沿岸津波被災地（市町の本部＋避難所数箇所）を回り、流失した家屋等の廃木材の利活用の可能性を確認するとともに
「このような湯沸しと調理の簡単なかまどを作ってみましたが必要ありませんか？」と実物を見ていただきながら、お伺い（現地の需要調査が最も重要だと考えています）に回りたく思っています。
- ・被災地の要望を基に、増産体制を整え（資材が揃えば、一日数十の増産は可能です）、マスコミ各社様に協力いただき広報もしながら被災地にきめ細かく展開することが理想の姿です（避難所等被災地で「そんなもの要らない」との声しかなければ、試作で終わりにしていません）。

●架設や運営の方法

【ボランティアによる】

- ・岩手・木質バイオマス研究会の遠野前線部隊と岩手県建設業協会遠野支部が中心となって設置要望のある避難所や被災集落架設を行い、その後の運営の始動（薪集めや焚き火かまどによる湯の利用など）の支援はボランティア等の活用を考えております。
- ・県内の森林関係NPOをはじめ、県外からも例えば、土佐の森救援隊様、京都学園大学バイオマス学部様等から、木質バイオマス利用に関してボランティア派遣のお申し出をいただいております。

2. 岩手・木質バイオマス研究会会員企業様等から提供いただいた薪ボイラーの活用

3月20日には、

- ・トモエテクノ様（会員 東京都）から100kWの薪ボイラー（電力不要）が、
- ・アーク様（新潟市）様から車載タイプの80kWの薪ボイラー（要100V電力）が、
遠野市 松田建設様様の資材置き場に到着しました。
- ・それらボイラーについても設置を希望される現地への設置や、トラック車載による移動式等も検討の上、被災地域における現場発生廃木材等を燃料（薪の運搬、加工等が被災者の「仕事」になる）とする大量の湯の供給を実現したいと考えております。

(参考資料 抜粋・コピー・転送 発行者の了解済み)

2011年3月18日(金曜日)

5339号

1980年7月18日 第三種郵便物認可

毎週月、水、金曜日の週3回発行(但し、祭日を除く)

環境エネルギー/COAL & POWER REPORT

岩手・木質バイオマス研究会(盛岡市、伊藤幸男会長)、メーリングリストで復旧への協力を呼び掛け
岩手県南広域振興局・深澤光氏の、木質バイオマスエネルギー供給提案に、県内外各所から反響

東北関東大震災の被災地のひとつである岩手県で、岩手・木質バイオマス研究会(WB1、盛岡市、伊藤幸男会長)会員を対象に、メーリングリストで復旧への協力を呼び掛ける提案がなされ、反響を呼んでいる。

呼び掛けたのは、同県南広域振興局遠野農林振興センターの深澤光氏で、地震発生当日、福島県内の新幹線車内で被災し、福島市内の避難所で数日間生活した経験を踏まえて「被災者を何とか支援したい」と立ち上がったもの。

同氏の提案は具体的で、実現可能な例としてあげているのは、熱エネルギーの供給策。

原料は、被災された住宅等の構造材などの木質バイオマスで、これらを、チェーンソーと斧で燃料化して、U字側溝やドラム缶などを利用して熱エネルギーの供給を行うもの。避難場所での暖房、調理、入浴などの熱源は電気、重油、灯油、ガスがほとんどだが、いずれも供給路を断たれるか、インフラの損失かで不足しており、被災各地で補給が喫緊の課題となっている。

同氏はまた、岩手・木質バイオマス研究会が、行政やNPOなどと連携して具体的な行動を起こす提案もしている。WB1のメーリングリストへの投稿は wbi@al-a.main.jp。

発行所：(株)エネルギー経済センター 〒113-0034 東京都文京区湯島 3-21-12 第三川田ビル 201
購読料：1年 85,000円 半年：45,000円 TEL 03(3832)0964(代表) FAX 03(3832)0965
E-mail: coalpower@poppy.ocn.ne.jp <http://www4.ocn.ne.jp/~coalreport/>
無断転載・コピー禁ず